

HANDS

Kokura Memorial Hospital

96

2024



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) [小倉記念病院](#) [検索](#)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

TAVIライブデモンストレーション的一幕。自分の手技を人に見せるライブは大変なプレッシャーの中行われる。見せられるレベルに手技を磨くには相当の努力が必要だ。



SINCE 1984

小倉ライブ

受け継いだ伝統

新たな歴史を紡ぐ

小倉ライブは、日本でPCIを普及させた延吉正清が医師・医療従事者への教育を目的として創設した会だ。およそ40年前、日本で初めて行われた心臓カテーテル治療を公開すると、たくさんの見学者が小倉記念病院を訪れるようになった。カテ室だけではPCIを教えることが難しくなったため、より多くの医師・医療従事者にライブデモンストレーションを見てもらえるようにと誕生したのが小倉ライブである。今では冠動脈インターベンションはもちろん末梢血管インターベンション、ストラクチャーインターベンション、植え込み型デバイス、カテーテルアブレーションなど、小倉記念病院循環器内科で行われている最新治療について議論をし、安全で最適な治療法が何かを考え、共有する場となっている。心臓血管の治療方法は日々進化をしているが、「全国どこでも同じレベルの治療が受けられないといけない」という信念は、40年経った今も色褪せることはない。この原点を胸に、医師たちは医療を次世代に紡いでいく。

KOKURA LIVE 2024



EVT

循環器内科部長 曾我 芳光

- ・日本内科学会 総合内科専門医 指導医
- ・日本循環器学会 専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会 専門医
- ・日本心臓リハビリテーション学会 指導士
- ・アメリカ心臓病学会特別正会員 (FACC)
- ・日本不整脈心電学会

毎年、いろんなデバイスや様々なコンセプトが登場するEVTの世界ですが、今年もすべてを網羅すべく、欲張った企画で構成しました。橈骨動脈アプローチ、薬剤溶出性デバイス(DESとDCB)、ステントグラフト、レーザー、イメージングデバイス、重症虚血肢など重要なトピックを通して最新の潮流を感じて頂けたのではないのでしょうか。約500名もの先生方が随時視聴して頂き、身の引き締まる思いとともに、興味の高さを実感しました。日進月歩のEVTにおいて、今後も新しいデバイスを新しいコンセプトで提供できるよう切磋琢磨しながら来年の開催に向けて準備したいと思います。



このPCIコースは延吉先生が創設された日本で最も伝統あるライブコースで、今年で41回となりました。生活習慣病の拡大に伴い病変も複雑化しており、石灰化、慢性閉塞病変などより高度な技術を要する病変が増えております。一方で、たくさんの治療デバイスの選択肢自体も増えており、様々なデバイスをどのタイミングで使用して適切な治療を行っていくかが議論の対象となります。Fellowshipコースではモデルを使った若手向けのライブを、Educationalコースでは、CTOならびに石灰化、合併症についての座学を行いました。CTOの領域ではビギナーの先生が今さら聞けない内容を、石灰化領域については、血管内石灰化破砕術(IVL)が登場し、デバルキングとの使い分けに焦点を当ててレクチャーしてもらいました。対処がしづらい場面も多い合併症に関しても、全ての先生にとって意義のあるセッションになったのではないかと思います。



PCI

循環器内科部長 兵頭 真

- ・日本内科学会 総合内科専門医 指導医
- ・日本循環器学会 専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会 専門医
- ・植え込み型除細動器・ペースメーカーによる心不全治療 登録医
- ・経皮的リード除去術者認定
- ・日本不整脈心電学会
- ・指定航空身体検査医
- ・日本心臓リハビリテーション学会



Ablation

循環器内科部長 永島 道雄

- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本循環器学会 専門医
- ・日本不整脈心電学会 専門医 評議員
- ・植え込み型除細動器・ペースメーカーによる心不全治療 登録医
- ・経皮的リード除去術者認定
- ・日本心臓リハビリテーション学会
- ・日本集中治療学会
- ・日本心血管インターベンション治療学会

今年の小倉ライブデモンストレーションでアブレーションコースでは、現在使用可能な3Dマッピングシステムやアブレーションカテーテルを用いて、様々な不整脈の治療を行いました。座長、コメンテーターの先生方と症例ごとに治療方針や手技の方法、また実際のアブレーション中にこういった方法を行うと成功率を上げることができるというチップ&トリックを勉強できたのではないのでしょうか。幸いすべての症例を無事に治療完遂することができました。来年のアブレーションコースでは、待ちに待ったPFA：Pulse Field Ablationを使用したアブレーションコースを皆さんと議論できるのではないのでしょうか。来年も患者様の治療に有意義なコースになるようスタッフ一同努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。



今回のSHD (Structure Heart Disease) コースでは、合計9つのライブ配信を行いました。TAVI、Mitraclip、WATCHMANの生ライブに加えて、僧帽弁閉鎖不全に対する日本に新しく登場したデバイス「PASCAL Precisionシステム」のビデオライブを配信しました。新しいデバイスをいち早く取り入れ、有効性を伝えていくことがこの小倉ライブの使命です。2日間当院を代表する若手医師メンバーのビデオライブを始め、ディスカッションしやすい雰囲気を取り組みを共有することができました。今後もストラクチャー有志達と更なる普及に努めていきたいと思っています。



SHD

循環器内科部長 白井 伸一

- ・日本内科学会 総合内科専門医 指導医
- ・日本循環器学会 専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会 専門医
- Valve委員 SHD委員 ASR/PFO特命委員
- ・日本経カテーテル心臓弁治療学会 (JTVT) TAVR実施医 指導医 理事
- ・経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定術者
- ・経皮的心房中隔欠損閉鎖術認定術者
- ・左心耳閉鎖術 (Watchman) トレーニング受講終了
- ・Structure Club Japan 理事 ・日本集中治療医学会
- ・PCR Tokyo Valves program committee
- ・日本心血管脳卒中学会 学術評議員 ・TAVIプロクター

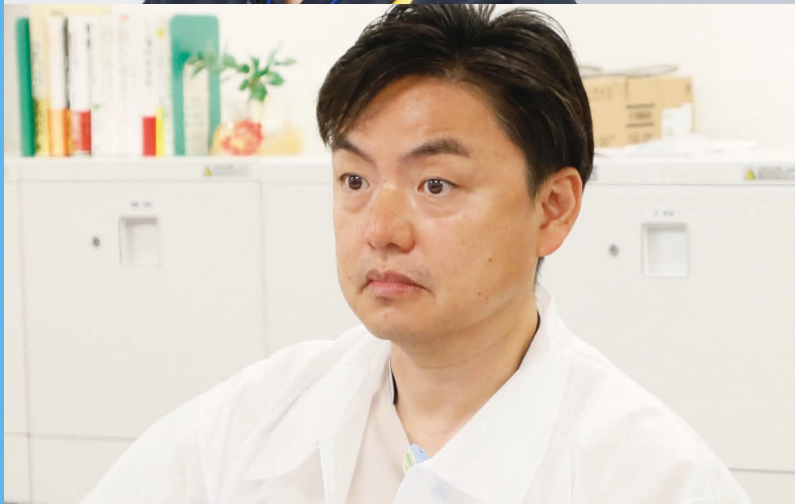
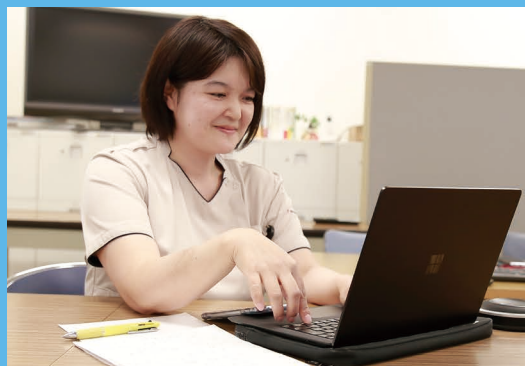


Co-medical

メディカルスタッフコースディレクター

一ノ瀬 良二
小宮 由美子
武富 康成

メディカルスタッフコースのテーマ「～お宅の○○どうしてる?～」と題し、「現場のOJT」「心不全の療養支援」を中心に多職種が管理している視点、問題等を他施設と情報共有し、視聴者のチャットや即時アンケートを交え、現場の生の声で充実した議論が出来ました。「小倉のEVT、スタッフ目線で見てみらん?」では、ビデオライブ映像で患者に携わる多職種の疑問点、他施設での実践等を情報共有し活発なディスカッションが出来ました。視聴率も過去最高で、視聴された方、参加者を含め楽しく開催できたと思います。これからも医療の質の向上とメディカルスタッフの情報共有に積極的に取り組んでいきます。



デバイスコースでは、CSP(Conduction System Pacing)に挑みました。また今使えるリードレスペースメーカの各社特徴や治療戦略、安全に行うための植え込みの手技、CRTのアップグレード手技、また通常の新規CRT症例を生ライブで配信しディスカッションを行いました。刺激伝導系ペーシングでは現在使用可能なテクニックを用いて適応、またどうやって安全に行っていくかを皆さんと共有することができました。デバイスの進歩は著しく、医師は新しい知識や技術をいち早く取り入れる探究心が不可欠です。議論した内容が今後の皆さんの臨床の一助になること、また若い先生が今後オペレーターとして育っていくことを期待しています。



DEVICE

副院長 循環器内科主任部長 安藤 献児

- ・京都大学臨床教授
- ・日本内科学会 総合内科専門医 指導医
- ・日本循環器学会 専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会 専門医
- ・植え込み型除細動器・ペーシングによる心不全治療 登録医
- ・日本不整脈心電学会 専門医
- ・経皮的リード除去術者認定
- ・外国人医師臨床修練指導医
- ・ヨーロッパ心臓病学会 特別正会員
- ・日本心臓リハビリテーション学会
- ・日本心不全学会
- ・日本高血圧学会
- ・日本心臓病学会



全国のプロフェッショナルが 小倉ライブに集結。

カテーテル治療を必要としている患者は全国各地にたくさんいる。小倉ライブでは全国からプロフェッショナルを招聘し、手技を披露してもらう。手技は教科書ではわからない。治療の勉強をするには熟練された術者の手技を実際に見ることが最も役に立つ。経験を積んだ医師たちが一堂に会し、一つ一つの症例について議論を交わしていく。患者が全国どこでも同じレベルの治療が受けられるために、日本全体の医療レベルを上げること。これが小倉ライブの目的であり意義である。

すべては「For the patient」

患者がより良い治療につながるよう、私たちは学び続ける。

**KOKURA
LIVE 2024**

小倉記念病院

小倉ライブ参加登録者数
約**8,000**名

